

創刊にあたって

東日本旅客鉄道株式会社 常務取締役 技術企画部長
兼 JR東日本研究開発センター所長

有森 幸雄



21世紀の初年度にあたる2001年12月に当社の研究開発体制を一新して新たにJR東日本研究開発センターを大宮に開設しました。

1987年の国鉄改革の際に、国鉄の技術研究所と労働科学研究所は統合して財団法人の鉄道総合技術研究所となり、JRグループ共同の研究機関の使命を持って設立されたため発足当時のJR各社は自前の研究所を持たないでスタートしました。

しかしながら当社は、1988年に発生した中央線東中野駅付近での列車の追突事故を契機に安全研究所を設置し、更に初代山下会長の強い意志により、1991年に新幹線の高速化・軽量化や、鉄道の制御システムの革新などを行う総合技術開発推進部と、現場の3k作業の解消やメンテナンス作業の機械化などを行なうテクニカルセンターを設置して独自の研究開発を行なってきました。

これらの研究開発組織は3ヶ所に分散配置されていて、実験設備などは殆ど持たない組織であったため今回、それらを統合・再編して当社のみならず、JR東日本グループの研究開発の中核としての使命を持たせて設立したものです。

研究開発センターには、内部組織として既存の安全研究所、テクニカルセンターのほかに新たにフロンティアサービス研究所と先端鉄道システム開発センターを配置しました。

フロンティアサービス研究所はマーケティングや新たな顧客サービスの開発など「価値」「快適」「空間」の3つの創造を行うソフト系の研究所で、もちろん鉄道会社としては初めての試みです。

そのため、所長には社外からマスコミや大学でマーケティングや女性の職域拡大などの分野で活躍されてきた女性を招聘してスタートしました。

また先端鉄道システム開発センターは車両や鉄道の制御システムなどを最新のITやネットワーク技術を使い抜本的に未来型のシステムに変革することを使命とする研究所です。

特にこの2つの研究所は、社内の知識や人材だけでは成果が期待しにくい分野であり、社外の先端的な技術やノウハウを持った企業や研究者との協同作業が必要ですので、担当している研究テーマが外から見て分かり易い組織としたものです。

今回このテクニカルレビューを創刊することにしたのは、社外に対して当社が行なっている研究の成果を発信することにより、当社の研究開発のテーマにどんなものがあるか、また、それに対して新しい技術を使うとどんな進歩が得られるかなどの情報を受信したいとの思いが強いからです。その主旨にご理解をいただいて双方向の情報交換が活発に行なわれることを祈念いたしましてテクニカルレビューの創刊のご挨拶とさせていただきます。